

私たちの施設は、「福祉サービス第三者評価」を活用して、利用者サービス向上のために常に努力しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

| 施設名 | きね川福祉作業所 | | 施設番号 | 44-0059 |
|---------------------|--|---|---|---------|
| 項目 | 評価結果に基づく現状分析 (29年度) | 改善計画 (29年度末時点) | 実施状況 (30年10月1日時点) | |
| 家族を含めた生活支援 | 40歳以上の利用者が半数強を占め、平均障害支援区分も3を超えている。事業所は、利用者の高齢化・重度化に備え、安全な作業環境の整備、地域関係機関と連携して送迎や日中活動の利用促進を検討したり、法人内外入所施設の見学など、施設運営の安定と利用者・家族を支える方策を実践してきたが、さらなる取り組みの強化が期待される。また、家族の高齢化や家庭環境の変化により、家族会の出席者が減少傾向にあり、相談支援事業との連携で家族を含めた生活支援の期待が高まっている。 | 家族会の出席状況については、家族の高齢化により避けることのできない状況である。また、家族が働きに出ることが、普通となった時代に於いては、欠勤してまで出席することは難しいと考えられる。家族への支援は、計画相談支援を通して、作業所の支援と連携して行うこととしたい。 | 家族の介護負担などにより、グループホームへの入居や生活保護の受給などのケースマネジメントを実施したり、グループホームへの支援上のサポートなどを行っている。 | |
| 多機能化事業の検討 | 28年度の福祉事業収益は、わずかに収支差額が得られる値に留まった。29年度は収入改善のために利用者がいない就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援B型の利用定員を40名から46名とした。しかし、区の補助金削減が心配され、利用者の高齢化で稼働率が低下したり、区内に新設される入所施設への移行希望者もいる。一方、高い工賃を維持するためには手厚い職員数も必要で、労働分配率は90%と高い。障害支援区分が4以上の利用者が42%いる中で、高齢・重度者へのサービスを想定した多機能型事業の検討が期待される。 | 生活介護事業と就労支援継続B型との多機能化の事業を平成33年度から実施することを計画し、準備を進める。今年度は、ハードウェアの対応として、送迎車両が安全かつスムーズに出入りできる門の改修に向けて、設計者に依頼し改修内容を確定し、次年度に葛飾区の補助金の予算要求を行う予定である。 | 設計依頼を行うべく、仕様概要を企画書としてまとめ、設計業者との打合せを行った。設計業者には2月までに設計書をまとめるように依頼した。 | |
| かりんとう饅頭作業への利用者参加の課題 | 平成28年度の工賃総額は1,433万円、月一人平均は25,000円と法人内の事業所では最も高い工賃となっている。その中で事業所は、自主生産かりんとう饅頭をコンサルタントの協力を得ながら開発を続け、冷凍庫やフライヤーなどの備品整備と試作を繰り返しながら29年9月に販売を開始した。地域の祭りやイベントなどの販売は好評を得ているものの、製造工程の中で高熱処理等があり、安全面から作業は職員が中心となって生産している。今後は、利用者が関わられる作業を増やして行くことで、利用者のやる気の向上につながることを期待したい。 | 29年度に製造販売を開始出来たので、30年度は、日々の作業として定着し、製造、販売を行う。そして、現在、利用者の作業としてかりんとう饅頭の袋の製造とイベント販売の販売員を行って、これをさらに拡大して、製造工程にも携わることが出来るようにしたい。 | 経験ある職員の病気休職により、職員体制の課題により、日々の自主生産の支援体制が難しくなった。30年度は、足踏み状態である。職員の育成や非常勤職員の雇用など、マンパワーの強化を図りながら、先に進めて行きたい。なお、現時点で1週間前の製造製品の冷凍保存に品質、安全性に問題ない製法を開発したので、イベント当日、朝早くからの製造をしなくとも済むようになったので、通常の支援時間での製造が可能となった。 | |

※この様式は、「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「どうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。